



すずしろ

～開拓・発展・完成～

7月 第4号

平成30年7月2日

開進第四中学校だより

校長 児島 泰彦

東京は梅雨が明け、より一層暑い日が続いて行きますが、7月は、一学期のまとめの月になります。平成30年度をスタートした一学期は、皆さんにとっていかがだったのでしょうか。学習・生活・部活動等、しっかりとそれぞれの活動を振り返り、二学期や今後の学校生活に活かして行ってください。

<朝礼の話>

4年の一度の祭典といえば、皆さんは何を連想しますか。私はやはりオリンピック・パラリンピックが真っ先に頭に浮かびます。今ロシアで開催されているサッカーの世界カップも4年に一度の開催で、2002年には日本でも韓国との共催で行われたことは皆さんもよく知っていることと思います。では、「世界最大のスポーツの祭典は」というと、実はサッカーの世界カップなのだそうです。ワールドカップは世界中の国と地域の代表が世界一を競う大会ですが、あくまでサッカーという一競技の大会です。一方で様々な競技の各国代表がしのぎを削るのがオリンピックです。それにも関わらず、ワールドカップの世界の視聴人口はオリンピックのそれをはるかに上回ります。ちなみに、前のデータになるのですが、2006年ドイツ大会のテレビ視聴者数は、世界214カ国・地域で延べ263億人、オリンピック・パラリンピック2008北京大会の視聴者数は約47億人、約300種目のオリンピックが束になってかかってもサッカー一競技の世界カップが圧勝しているのです。あらゆる競技が束になってワールドカップの視聴人口には及ばないのです。

そのワールドカップで、日本代表チームが快進撃を続けています。大会直前に監督が交代するというアクシデントがあり、リーグ戦の対戦相手が強豪国ばかりで、「どうせだめだろう」ととても期待できない雰囲気になっていました。私自身も同じ気持ちでした。しかし、初戦のコロンビア相手に2対1で勝利し、第2戦のセネガル戦でも2対2の引き分け。大会前のさめた雰囲気から一気に日本中が盛り上がりました。第3戦は残念ながら負けてしまいましたが、最終的にグループリーグを突破することができました。

前回大会では予選リーグで敗退し、世界との差を実感した選手たちがその悔しさを忘れずもち続け、特にベテランと呼ばれる人たちが、闘志あふれるプレーを發揮し、それに若い選手が融合して素晴らしい戦いを見せてくれています。

世界中の人たちが魅了される素晴らしいプレーが毎日のように見られるのは本当にすごいことですが、やはり皆さんに感じてほしいことは、どんなに困難な道のりでも、決してあきらめることなく努力を続けていけば、夢の実現に近づくのだということを選手たちが教えてくれているということです。皆さんの学校生活の中でも、自分の立場に置き換えてチャレンジしていく姿を見せてください。

【職場体験】(担当：小野 輝世)

2年生はキャリア教育の一環として、職業についての調べ学習を行い、6月28日(木)・29日(金)の2日間、職場体験を行いました。販売業や交通など様々な業種で、あわせて49の事業所にお世話になりました。これまで働くことの意義やマナーについて考え、職場体験に向けて事前学習を重ねてきましたが、当日はとても緊張した様子で体験を開始しました。それぞれの事業所で体験の内容を準備していただいております、普段はなかなか見られない仕事場を見学させていただいたり、幼稚園などで園児と遊んで関わったり、実際に清掃や品だしなどの作業をさせていただく中で、仕事の大変さや、やりがいを味わうことができました。生徒に職場体験を終えての感想を聞くと「将来この職種に就いてみたい」「緊張していたけど、慣れてきてお客さんと話せたりして楽しかった」といった声があがっていました。普段の生活では経験できないとても貴重な機会となりました。この体験をきっかけにして将来について、「働く」ということについて考えていってほしいと思います。最後になりますが、多忙の中、多くの事業所様に体験を快く引き受けてくださったことに感謝申し上げます。



【校外学習】

6月29日(金)、1年生としての大きな行事である校外学習が行われました。歴史・文化にあふれる都内の名所を見学することにより、自分たちの住む「東京の魅力」を理解することをねらいとしました。班毎に「見学のテーマ」を決め、情報を集めてコースを作りました。一人一人が目標をもち、責任ある活動ができ、実りある一日となりました。この活動は、3年生の修学旅行にもつながり、活かされていくと思います。

